

年頭挨拶 瀬戸内市のシビックプライド



瀬戸内市長
武久 顕也

明けましておめでとうございます。市民の皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。瀬戸内市といたしましても、ますます充実した市政に向けて、職員一同気持ちも新たに新年を迎えております。

昨年は10月に「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコの世界記憶遺産（世界の記憶）に登録されることが決まりました。また、11月には、瀬戸内市民図書館が全国における優れた取り組みの事例として評価され、2017年の「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー」の大賞を受賞しました。ご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

今年は、いよいよ日本最大級となる錦海塩田跡地のメガソーラー（大規模太陽光発電所）が完成する予定です。また、ハンセン病療養所入所者や地域の皆様の名誉の回復を図るため、長島のハンセン病療養所を世界遺産へ登録するための活動も本格化します。この他にも瀬戸内市の数多くの魅力を高める取り組みが続けられています。

こうした取り組みは、市民の皆様が瀬戸内市に対する誇りと愛着（シビックプライド）を持っていただくうえで重要です。そして、子どもたちが瀬戸内市で地域と触れあい、一生の財産となる体験を積むことや、市民の皆様が“まち”をよくしたいと願う思いを持って輝いてくださることで、地域の好循環が生まれます。

また、このシビックプライドを高めていくためには、子育て世代、高齢者、障害のある方など、あらゆる皆様がより快適に安心して暮らせるまちづくりに向けて努力することも欠かせません。3つのJ R駅前の整備や子育て広場、防災事業、有害鳥獣対策などの事業と併せて、それらを生かすきめ細かな施策にも力を入れる必要があります。

これからも市の健全な財政を維持しながら、子育て支援、教育をはじめとした人づくりに力を入れるとともに、地域の経済やコミュニティがより元気になるための仕組みづくり、市民の皆様が瀬戸内市を愛していただけるまちづくりを進めていきますので、お力添えいただきますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



錦海塩田跡地のメガソーラー

行政報告

Administrative Report

平成29年11月市議会定例会が11月28日に開会され、市長と教育長が行政報告を行いました。このページからは、その要旨を紹介いたします。なお全文は市ホームページで紹介しています。

市長から

11月14日、長島愛生園、邑久光明園、高松市にある大島青松園の瀬戸内地方ハンセン病療養所3園の世界遺産登録を目指すNPO法人の設立総会が邑久光明園で開催されました。

この法人は、世界遺産登録の取り組みを通じ、隔離政策による人権侵害の歴史と地域社会への影響を検証するとともに、ハンセン病回復者などの名誉回復を図ることなどを目的としており、市としてもこの官民一体となった取り組みが、他の療養所に広がるよう支援をしていきたいと考えています。

また、10月31日には、日本側のNPO法人朝鮮通信使縁

地連絡協議会と韓国側の財団法人釜山文化財団が共同申請した「朝鮮通信使に関する記録」がユネスコ世界記憶遺産（世界の記憶）に登録されることが決定しました。

2か国による共同申請という困難な作業を克服し、長年の関係者の夢をかなえることができました。この記録を瀬戸内市としても地域の財産として、将来に引き継がれていくよう、まちづくりに生かしていく所存です。

また、11月8日、図書館総合展のフォーラムとして開催されている「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2017」の大賞を瀬戸内市民図書館もみわ広場が受賞しました。岡山県内の自治体としては初めての受賞で、特に市民参加の取り組みが評価されました。今後も関係ボランティア

団体などの協力も得ながら、市民のための交流の場、また文化活動の場としての図書館機能の多様化に努めていきたいと考えています。

公共交通施策の進捗状況

11月1日から、市内3路線で市営バスの運行を開始しました。

11月15日現在の乗客数は、3路線合計で193人、一便当たりの平均乗車人数は0.8人となっており、路線ごとの乗車人数は、牛窓邑久駅線85人、西脇邑久駅線39人、美和線69人となっています。乗車場所は、市内各所に分散していますが、降車場所としては、瀬戸内市民病院と終点の邑久駅が多くなっています。

今後も交通不便地域にお住まいの多くの市民の皆さんに

ご利用いただき、外出の機会を増やし、健康増進や地域経済の活性化などにつながるよう、PRに努めていきたいと考えています。

「朝鮮通信使に関する記録」が世界記憶遺産に登録決定

10月31日、本蓮寺所蔵の詩書9冊を含む「朝鮮通信使に関する記録」17世紀〜19世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」が、世界記憶遺産に登録されることが決定しました。

本市では、瀬戸内市国際交流推進協議会と連携し、その日のうちに市内施設に懸垂幕と横断幕、のぼりを掲げるなど、登録決定を広く周知しました。

登録決定の5日後になる11月5日には、友好交流都市で

ある韓国密陽市、長崎県対馬市、日韓共同申請の韓国側団体である釜山文化財団などをお迎えし、世界記憶遺産登録決定の冠を掲げた瀬戸内牛窓国際交流フェスタ2017が開催されました。

世界記憶遺産登録の影響もあり、マスコミの取材なども多くあり、また通信使行列の沿道も例年より多くの人でにぎわいました。



約200人が参加し、華やかな衣装で行進した通信使行列

NPO法人ハンセン病療養所 世界遺産登録推進協議会の設立

11月14日、国立療養所邑久光明園において、「特定非営利活動（NPO）法人ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会設立総会」を開催し、設立の趣旨、役員、定款などについて承認を受け、岡山県に対して設立認証申請を行うことが議決されました。

主な役員として、理事長を山陽放送株式会社原憲一会長に、副理事長を全国ハンセン病療養所入所者協議会会長も務められている大島青松園入所者自治会森和男会長とすることが承認されました。そのほか、長島両療養所自治会、療養所の関係者、地元裳掛地区の市民2人に加え、瀬戸内市長と市民部長がそれぞれ承認されています。また、NPO法人の事務所は邑久光明園旧入所者自治会館に置くことが承認されました。

これを受けて11月21日に岡山県に設立認証申請書が提出

され、今後の日程としては、

今年度内には認証される予定で、設立登記を経てNPO法人が成立し、活動開始する予定です。また、活動開始に先立ってNPO法人の正会員、学生会員、応援会員の募集を行っています。

NPO法人事務局業務については、事実上活動の準備期間となる今年度中は、ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・岡山の事務局で行い、来年度から3年間は、邑久光明園旧入所者自治会館の事務所までNPO法人事務局専任職員として市職員を派遣することとしています。



設立総会の様子

有害鳥獣への対策

シカ・イノシシなどによる農作物への被害が深刻化する中、猟友会駆除班に協力をいただきながら捕獲したシカ・イノシシの頭数が、平成29年9月末時点で367頭になっています。昨年の同時期と比較すると、120頭多い数字で、今後さらに増加する傾向にあると見込んでいます。

このような状況を踏まえ、今年度は狩猟者が行う猟期中の捕獲に対しても新たに補助金を交付することで、個体数の減少を図り、農作物被害などの抑制に取り組んでいます。また、作付している田畑を獣害などの被害から守る目的で設置する「電気柵」や「金網」などの購入費の一部を補助していますが、被害軽減や経済的負担軽減を考慮すると、個人による柵の設置より、集落全体で取り組む「集落柵」がより効果的かつ効率的であることから、集落柵の設置に向けた働きかけを進めるとも



集落柵を設置する地域の皆さん

に、地域全体で総合的な被害対策に取り組めるよう推進していきたいと考えています。

吉井川流域DMOの進捗状況

本市と赤磐市、和気町の2市1町で進めている吉井川流域DMOの設立に向けた動きについては、平成28年7月に設立準備会を設置し、現在、法人設立に向けた準備を進めています。

この日本版DMO（デスティネーション・マネージメント・オーガニゼーション）は、一言で言えば「観光地づくりの舵取り役を担う法人」を意味するもので、これまでに支援業務として、各市町の地域資源、特に歴史・文化コンテンツの収集・整理などを

行いながら、外国人アンケート調査、ワークショップ、モニターツアーなどを実施し、DMOの有効性や必要性を検証してきました。

また、設立後の吉井川流域DMOが手がけるプロモーション運営業務においては、ホームページの基本構成や広域周遊ルートのプロモーションのあり方などの検討を行いながら、旅行関係の専門家からなる有識者会議などの助言を受け、DMOの位置づけや役割、実施すべき業務についての検討も進んでいます。

今後は、吉井川流域DMOの一般社団法人化を目指し、今年度中もしくは、来年度早期の設立に向け、準備を進めていきたいと考えています。また、法人の設立には、3市町の合意形成が不可欠です。

吉井川流域DMOの方向性、具体的には「インバウンド対策としての広域連携事業」の枠組みをしっかりと見据えながら、財源の面もしっかりと検証し、事業を進めていきたいと考えています。

瀬戸内市民病院で 婦人科検診を開始

市民病院に今年度導入予定のマンモグラフィ（乳房X線検査装置）は、設置に必要な検査などが終了しました。

市民病院では、乳がん・子宮がんの検診を実施するため、11月から産婦人科医師の派遣を受けて、毎週水曜日午前中および毎月第1、第3火曜日の午前中に乳腺超音波検査や血液検査などを含めた婦人科検診を開始しました。

人間ドックや各種健康診断と組み合わせる受診も含め、市民の皆さんに周知するとともに、健康増進に向けた健診事業を充実していきます。



市民病院に設置されたマンモグラフィ

瀬戸内市消防団への 防災活動車の交付が決定

瀬戸内市消防団に対し、公益財団法人日本消防協会から消防資機材交付事業として、防災活動車の交付が決定しました。防災活動車は、軽四自動車（緊急車両）で、放送設備などが整備されています。

配備後は、女性消防団員による高齢者への住宅防火訪問、住宅用火災警報器の普及促進活動、また災害時などの広報活動に活用し、市民の安全・安心な暮らしにつなげていきます。

教育長から

瀬戸内市民図書館が 「ライブラリー・オブ・ザ・ イヤー2017」大賞を受賞

これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関として、



大賞を受賞した瀬戸内市民図書館

瀬戸内市民図書館もみわ広場が「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー2017」において大賞を受賞しました。また、最終選考会の来場者の投票により決定される、オーディエンス賞も併せて受賞しました。

今回、大賞を受賞した理由は、市民への情報公開や協働による計画づくりなど、的確な整備プロセスを経たことと、テーマ配架や地域郷土資料と本の融合展示など、新たな図書館のあり方を示した点が評価されました。

こうした評価を踏まえて、今後市民の皆さんの声に耳を傾けつつ、暮らしを支え、潤いをもたらす図書館となるよう、努力していきます。

おかやま教育週間の活動

岡山県では、学校、家庭、地域社会が一体となって「地域の子どもは地域で育てる」という機運を盛り上げるため、毎年11月1日から7日までを「おかやま教育週間」としています。本市では、各学

校園の実情に合わせて、10月1日から11月30日まで、教育週間の活動を行いました。各学校園では、授業だけでなく、地域や保護者とのふれあい活動など、工夫を凝らした学校開放を行っています。学校開放は、各学校の発表の場や地域の皆さんとのふれあいの場ともなっていることから、今後も学校、家庭、地域社会が一体となって子どもたちを育てていける大切な機会と捉えています。

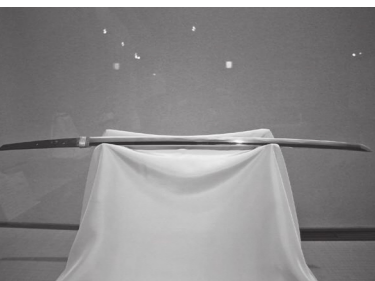
また、学校開放を通して保護者や地域の皆さんに子どもたちの活動や授業を自由に見ていただいたり、芸術鑑賞会や講演会などの行事に参加いただいたりすることで、学校

の取り組みや子どもたちの活動を保護者や地域へ発信する場としても継続していきたいと考えています。

備前長船刀剣博物館で 「朝鮮通信使と日本刀」を開催

博物館では、11月18日から平成30年2月12日まで、テーマ展として「朝鮮通信使と日本刀」を開催しています。朝鮮通信使と日本刀との関係は、江戸幕府から通信使を通じて朝鮮国王に日本刀を贈答したことに由来します。

テーマ展では、贈答用として日本刀制作を担った備前中国の水田国重など有名な刀匠の11口の刀剣を中心に、朝鮮通信使関連の文書や資料などを展示し、当時の日韓の文化交流の様子を紹介しています。



備前水田住大月八朗左國重（新見美術館蔵）